

# 矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1



発行日：平成 26 年 3 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 3 回全体会議を開催しました！

2月28日に、矢作川流域圏懇談会第3回全体会議を開催しました。当日は、参加者同士の熱い議論を行い、今後、山・川・海地域の理解と連携を進めていくことの重要性を確認することができました。

日時：平成 26 年 2 月 28 日（金）14:00～16:00

場所：豊田商工会議所会館 2F 多目的ホール

参加者：77名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

### 1. 今年度の海・川・山部会の活動報告／来年度の活動方針



#### ①海部会

- 全9回のWGを実施し、そのうち6回はごみ・流木調査、干潟の生き物調査などの現地でも活動を実施。
- 来年度は、4つのテーマについて、山川との連携を意識しながらWGを実施予定。



#### ②川部会

- 本川モデル、家下川モデル、地先の課題モデルの全8回のWGを開催し、現地調査と意見交換を実施。
- 来年度は3モデル地区の対象区間にとらわれず、検討を実施。



#### ③山部会

- 各回でテーマを設定しながら、全7回のWGを実施。休日のWGでは、開催前日に懇談会を実施。
- 来年度は、4つの地区及び、平日、休日をバランスよくおりませながら、WGを実施予定。



### 2. 全体会議で決まったこと



今後の矢作川流域圏懇談会の運営に向けて、以下の2点について、行っていくことを出席者全員で確認しました。

- 河川整備計画がどのように進捗しているかを確認するフォローアップを実施すること。
- 山・川・海の部会WGの1～2回分を共通のWGとし、各部会のアピールや連携を進めることとし、市民会議が主導のもと運営を行うこと。



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iinet.or.jp) までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見

### 1. 今年度の海・川・山の活動報告への意見



#### ●海部会（鈴木）

- 参加者が感じていることは絵に描いた餅ではなく、具体的な形で問題解決を行っていく必要がある。
- 海の疲弊というのは大変厳しいものがあるので、最初は規模が小さくても何とか連携、協働の中でやっていきたいという思いが非常に強い。



#### ●川部会（内田）

- 活動の中で一番うまくいっているのは家下川である。問題の規模とか協議しなければいけない団体が比較的近くにあり、実際にどんどん解決に向かいつつある状況である。
- 本川モデルは問題が大き過ぎて、矢作川という大きな川の土砂の動きや水の動きなどがからみあい、それにうまく取り組めていない感じがある。
- 地先モデルは、個々具体的な細かい問題がたくさんあり、うまく追いつけないという感じである。



#### ●山部会（蔵治）

- 山部会では、森林とか土砂も大事であるが、そこに人が住んでいるということが決定的に大事であると考えて議論を進めてきた。
- 人と地域の問題については、自発的にチャレンジしている人に対して話を聞きながら、山村再生担い手事例集を作成した。
- 森の問題については、流域の県や市町村への呼びかけや市民・行政の人たちと森づくりや木づかいのガイドラインを検討してきた。



### 2. 流域圏一体化に向けた意見



#### ●流域一体化に向けて

（●意見 ▶ 回答）

- 海から上流のダム砂の問題を見学したが、海がほしい土砂が山の中で活用されていることについて、山の人たちはどのように考えているのか（井上）。
  - ダムについては、必要なところには必要だと思う。地元としても行政と協力しながら、ダムの問題については考えていきたい（大島）。
- ダムが悪いとは言っていない。海では砂が流れてこないことが大問題であり、山の人が森林や溪谷が重要と言いながら、このような実態はどうなのかということ。本来海に流れ出るべき砂を海に戻す努力をぜひお願いしたい（鈴木）。
  - 砂の問題について、下流のまず災害を防止するという観点からいけば、その地域で砂を処理していかないとなかなか進まない問題ではないかと思う（大島）。砂を流すなどという考え方で行ってきた歴史的な経緯があるからだと思う。それを転換するのであれば、どこから土砂をどう流すのかという議論をはじめないといけないと思う（蔵治）。
- 河口に砂が来ないということは、河口に干潟ができない。干潟ができなければ魚もすめなくなるし、貝もすめなくなる。これは非常に大きな問題であると認識している（石川）。
- 山部会は、あまり川・海部会に参加していないと考えられるので、川とか海に問題意識を持つのに適した現地見学に上手に誘っていただければと思う。ただし、現状では、砂がないと魚が住めないということがイメージできない（今村）。
- 山・川・海の連携については、市民会議で今後取り組んでいきたいと思う（黒田）。
- 山・川・海の連携には賛成である。今後、10年後、20年度のめざすべき姿について絵をかいたらどうか。そうすれば、市民も懇談会が何を目標しているか分かると思う（山本）。
- 連携については、豊橋市でも豊根村の木質ペレットを温室栽培等に活用するなどの話も聞いている。このような良好な関係づくりができればいいと思う（谷川）。
- 今後、土木分野の間伐材等にどれくらい矢作川流域の木が使われているのか調査に行くかもしれないのでその際は、協力をお願いしたい（蔵治）。

